

帯広市立栄小学校 学校便り

さかえ



平成 29 年 10 月 6 日 校長 木下 剛

【H. 29 学校経営の重点】

『明日(未来)へつなぐ』
～質の高い日常実践を通して～

【キャッチフレーズ】

★はげめ 勉強!

★ひびけ 挨拶!

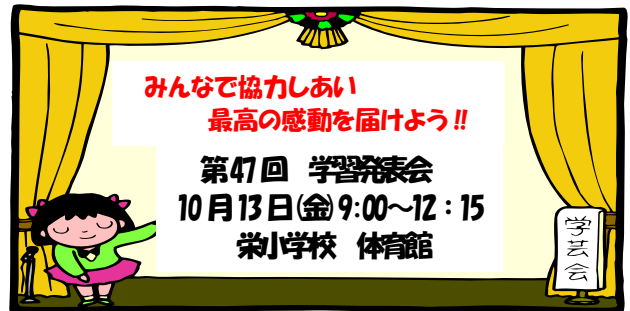
★みがけ 清掃!

第47回学習発表会に向けて

★ がんばっています ★

真剣かつ意欲的に取り組む練習が続いています。子ども達はそれぞれの活躍の場を得て、劇や器楽合奏、合唱等の練習に精一杯がんばっています。

学習発表会当日は、それぞれの学年の発表をご覧いただき、お子さんの成長のあしあとを実感していただけたらと思います。どうぞ、ご家族おそろいでお越しく下さい。お待ちしております。



体育館に行くと1年生が練習していました。

楽器で演奏する以前に、自分の立ち位置を覚えることやしっかり立つこと、よそ見をしないこと、話を聞くことなど、いろいろやらなければならないことがあるようです。

こうやって1年生も立派に育っていくのでしょ。ガンバレ1年生!!

2年生は“劇”の練習を多目的室で行っていました。発表会当日にお見せできるような姿になるには、地道な取組の積み重ねが大切なのです。右はステップに悪戦苦闘中の2年生です。



3年生は“器楽合奏”に取り組んでいます。鍵盤ハーモニカのグループでは、①番②番③番…などと、指づかいを特訓中です。汗をかきながら、一生懸命息を吹き込む3年生でした。



バイキング給食

帯広栄小学校で2日、6年生59人を対象にバイキング給食が行われ、堆肥や農作物、加工品の循環プロジェクト「ばん馬toきのこ小麦の輪」が作った「うまっしゅパン」が提供された。交流給食会として生産者からも参加し、給食を食べながら児童に十勝の農業などについて説明した。小麦生産農家から提供された麦わらをばん馬の寝わらに利用し、使用後の麦わらをきのこ作りの堆肥とし、さらに小麦作りの肥料にする循環プロジェクト。出来上がった小麦を製粉し、パンに加工した。

給食会では、パン製造の杉山雅則さん(満寿屋商店社長)とマッシュルーム栽培の菊地博さん(鎌田きのこ代表)、小麦を生産した三浦尚史さん(三浦農場、音更)ら関係者5人が、寸劇で循環システムを紹介。児童らはパンやから揚げ、サラダなど20品から各自の皿に盛り付けて食べた。……〈以下省略〉

～十勝毎日新聞社記事より～



上記の通り、今年のバイキング給食は例年の取組とはひと味違ったものとなりました。『うまっしゅパン』という新製品ができるまでの過程を学習し、十勝らしさを感じながら多くのメニューを食した6年生でした。



★ 5年生は「AIR DO 航空教室」で学びました ★



AIR DO (エア・ドウ)は飛行機をより身近に感じてもらうために、パイロット、客室乗務員(CA)、整備士などによる「航空教室」の機会を提供してくれています。

10月4日(水)、5年生を対象に行われた航空教室では、飛行機が飛ぶ仕組みやパイロット、客室乗務員(CA)、整備士の仕事紹介などをクイズや体験を交えながら楽しく学ぶことができる内容となっていました。5年生は以前にホンダカーズの会社見学を行い、エンジニアさんの話を聞いたり福祉車両の体験乗車を行ったりし、自動車を作る工業について学ぶとともに働く人たちについても学ぶことができました。

このように様々な職業に就いている方々からお話をきくことは、「将来就きたい職業」について考える一つのきっかけになることは間違いないでしょう。ちなみに私が子どもの頃は、パイロットやスチュワーデスはなりたい職業の上位にランクインされていたように思います。果たしてどれくらい子ども達が、この日の学習を通して、パイロットなどの職業に興味・関心を持ったことでしょうか。聞いてみたいところですね。